

新旧対照表

1. 一般試験法のうち、47. 定性反応

改正案	現行
クエン酸塩 (1) クエン酸塩の溶液 1～2 滴にピリジン <u>／</u> 無水酢酸混液 (3 : 1) 20mL を加え、2～3 分間放置するとき、赤褐色を呈する。	クエン酸塩 (1) クエン酸塩の溶液 1～2 滴にピリジン <u>・</u> 無水酢酸混液 (3 : 1) 20mL を加え、2～3 分間放置するとき、赤褐色を呈する。
フッ化物 (2) フッ化物の中性又は弱酸性溶液にアリザリンコンプレキソン試液 <u>／</u> pH4.3 の酢酸・酢酸カリウム緩衝液 <u>／</u> 硝酸セリウム (Ⅲ) 試液混液 (1 : 1 : 1) 1.5mL を加えるとき、液は、青紫色を呈する。	フッ化物 (2) フッ化物の中性又は弱酸性溶液にアリザリンコンプレキソン試液 <u>・</u> pH4.3 の酢酸・酢酸カリウム緩衝液 <u>及び</u> 硝酸セリウム (Ⅲ) 試液 <u>の</u> 混液 (1 : 1 : 1) 1.5mL を加えるとき、液は、青紫色を呈する。
マグネシウム塩 (2) マグネシウム塩の溶液に水酸化ナトリウム試液を加えるとき、白色のゲル状の沈殿を生じ、 <u>この一部にヨウ素試液を加えるとき、沈殿は暗褐色に染まる。また、他の一部に過量の水酸化ナトリウム試液を加えても沈殿は溶けない。</u>	マグネシウム塩 (2) マグネシウム塩の溶液に水酸化ナトリウム試液を加えるとき、白色のゲル状の沈殿を生じ、 <u>過量の試液を加えても、沈殿は溶けないが、ヨウ素試液を追加するとき、沈殿は、暗褐色に変わる。</u>
リン酸塩 (正リン酸塩) (2) リン酸塩の希硝酸酸性溶液に七モリブデン酸六アンモニウム試液を加えて加温するとき、黄色の沈殿を生じ、水酸化ナトリウム試液又はアンモニア試液を追加するとき、沈殿は溶ける。	リン酸塩 (正リン酸塩) (2) リン酸塩の <u>中性又は</u> 希硝酸酸性溶液に七モリブデン酸六アンモニウム試液を加えて加温するとき、黄色の沈殿を生じ、水酸化ナトリウム試液又はアンモニア試液を追加するとき、沈殿は溶ける。

2. 一般試験法のうち 81. 試薬・試液

改正案	現行
エタノール, 中和 エタノール (95vol%) 適量にフェノールフタレイン試液 2 <u>～</u> 3 滴を加え、これに 0.01mol/L 水酸化ナトリウム液又は 0.1mol/L 水酸化ナトリウム液を、液が淡紅色を呈するまで加える。用時調製する。 <u>エタノール, 中和, 希</u> <u>水／エタノール (95) 混液 (1 : 1) 適量にフェノールフタレイン試液 2～3 滴を加え、これに薄めた希水酸化ナトリウム試液 (1→10) 又は希水酸化ナトリウム試液を、液が淡紅色を呈するまで加える。用時調製する。</u> エタノール, 無アルデヒド エタノール (95) 1000mL を共栓瓶にとり、酢酸鉛 (Ⅱ) 三水和物 2.5g を水 5 mL に溶かした液を加え、よく混ぜる。別に水酸化カリウム 5 g を温エタノール (95) 25mL に溶かし、冷後、この	エタノール, 中和 エタノール (95vol%) 適量にフェノールフタレイン試液 2 <u>滴又は</u> 3 滴を加え、これに 0.01mol/L 水酸化ナトリウム液又は 0.1mol/L 水酸化ナトリウム液を、液が淡紅色を呈するまで加える。用時調製する。 (新規) エタノール, 無アルデヒド エタノール (95) 1000mL を共栓瓶にとり、酢酸鉛 (Ⅱ) 三水和物 2.5g を水 5 mL に溶かした液を加え、よく混ぜる。別に水酸化カリウム 5 g を温エタノール (95) 25mL に溶かし、冷後、この

液を前の液にかき混ぜないで静かに加え，1時間後，この液を激しく振り混ぜて一夜放置し，上澄液をとり蒸留する．	液を前の液にかき混ぜないで静かに加え，1時間後，この液を激しく振り混ぜて一夜放置し，上澄液をとり蒸留する．
<p>ガスクロマトグラフィー用コハク酸ジエチレングリコールポリエステル</p> <p>コハク酸ジエチレングリコールポリエステル，ガスクロマトグラフィー用を見よ．</p> <p><u>ガスクロマトグラフィー用 14%シアノプロピルフェニル－86%ジメチルシリコーンポリマー</u></p> <p><u>14%シアノプロピルフェニル－86%ジメチルシリコーンポリマー，ガスクロマトグラフィー用を見よ．</u></p> <p>ガスクロマトグラフィー用ジメチルシリコーン</p> <p>ジメチルシリコーン，ガスクロマトグラフィー用を見よ．</p>	<p>ガスクロマトグラフィー用コハク酸ジエチレングリコールポリエステル</p> <p>コハク酸ジエチレングリコールポリエステル，ガスクロマトグラフィー用を見よ．</p> <p>(新規)</p> <p>ガスクロマトグラフィー用ジメチルシリコーン</p> <p>ジメチルシリコーン，ガスクロマトグラフィー用を見よ．</p>
<p>シアノプロピルシリコーン，ガスクロマトグラフ用</p> <p>シアノプロピルシリコーン，ガスクロマトグラフィー用を見よ．</p> <p><u>14%シアノプロピルフェニル－86%ジメチルシリコーンポリマー，ガスクロマトグラフィー用</u></p> <p><u>ガスクロマトグラフィー用に製造したもの．</u></p> <p>2,4－ジアミノフェノール二塩酸塩 アミドール (NH₂)₂C₆H₃OH・2HCl 純度 98.0%以上</p>	<p>シアノプロピルシリコーン，ガスクロマトグラフ用</p> <p>シアノプロピルシリコーン，ガスクロマトグラフィー用を見よ．</p> <p>(新規)</p> <p>2,4－ジアミノフェノール二塩酸塩 アミドール (NH₂)₂C₆H₃OH・2HCl 純度 98.0%以上</p>
<p>α－ピネン 2－ピネン 純度 95.0%以上</p> <p><u>ヒノキチオール，定量用 C₁₀H₁₂O₂ 純度 99.0%以上</u></p> <p>2,2'－ビピリジル C₁₀H₈N₂ [K8486, 特級]</p>	<p>α－ピネン 2－ピネン 純度 95.0%以上</p> <p>(新規)</p> <p>2,2'－ビピリジル C₁₀H₈N₂ [K8486, 特級]</p>
<p>ポリビニル硫酸カリウム試液，0.0025mol/L</p> <p>1000mL 中 ビニル硫酸カリウム (C₂H₃SO₄K:162.21) <u>0.4055g</u> を含む．</p> <p>調製 ポリビニル硫酸カリウムをデシケーター (減圧，シリカゲル) で 48 時間乾燥し，純物質 0.0025g 当量に相当する量を精密に量り，水を加えて溶かし精密に 1000mL とする．</p>	<p>ポリビニル硫酸カリウム試液，0.0025mol/L</p> <p>1000mL 中 ビニル硫酸カリウム (C₂H₃SO₄K:162.21) <u>0.04055g</u> を含む．</p> <p>調製 ポリビニル硫酸カリウムをデシケーター (減圧，シリカゲル) で 48 時間乾燥し，純物質 0.0025g 当量に相当する量を精密に量り，水を加えて溶かし精密に 1000mL とする．</p>

3. 各条

名称	改正案	現行
アジピン酸ジイソブチル	本品は，主としてアジピン酸とイソブチルアルコールのジエステル (C ₁₄ H ₂₆ O ₄ : <u>258.35</u>) からなる．	本品は，主としてアジピン酸とイソブチルアルコールのジエステル (C ₁₄ H ₂₆ O ₄ : <u>285.35</u>) からなる．
N－アセチル－L－グルタミン酸	<p>確認試験</p> <p>(1) 本品を乾燥し，赤外吸収スペクトル測定法の臭化カリウム錠剤法により測定するとき，波数 <u>3270</u>cm⁻¹，<u>3110</u>cm⁻¹，1710cm⁻¹ 及び <u>1570</u>cm⁻¹ 付近に吸収を認める．</p>	<p>確認試験</p> <p>(1) 本品を乾燥し，赤外吸収スペクトル測定法の臭化カリウム錠剤法により測定するとき，波数 <u>3300</u>cm⁻¹，<u>3130</u>cm⁻¹，1710cm⁻¹ 及び <u>1560</u>cm⁻¹ 付近に吸収を認める．</p>

2-アミノ-2-ヒドロキシメチル-1, 3-プロパンジオール	<p>定量法 本品約 0.25g を精密に量り、水 100mL を加えて溶かした後、0.1mol/L 塩酸で滴定する（指示薬：ブロモクレゾールパープル試液 2 滴）。ただし、滴定の終点は、液の色が黄色に変わる点とする。</p> <p>0.1mol/L 塩酸 1 mL=12.114mg $C_4H_{11}NO_3$</p>	<p>定量法 本品約 0.25g を精密に量り、水 100mL を加えて溶かした後、0.1mol/L 塩酸で滴定する（指示薬：ブロモクレゾールパープル試液 2 滴）。ただし、滴定の終点は、液の色が黄色に変わる点とする。</p> <p>0.1mol/L 塩酸 1 mL=12.114mg $C_4N_{11}NO_3$</p>
イソステアロイル加水分解コラーゲン（1）	本品は、コラーゲントタンパク質を加水分解して得られるポリペプチドとイソステアリン酸との縮合物の 25%「流動パラフィン」溶液である。本品を定量するとき、窒素（N:14.01）1.0%以上を含む。	本品は、コラーゲントタンパク質を加水分解して得られるポリペプチドと「イソステアリン酸」との縮合物の 25%流動パラフィン溶液である。本品を定量するとき、窒素（N:14.01）として 1.0%以上を含む。
イソステアロイル加水分解コラーゲン液（2）	本品は、コラーゲントタンパク質を加水分解して得られるポリペプチドとイソステアリン酸との縮合物の 3%「イソステアリン酸」溶液である。本品は、定量するとき、窒素（N:14.01）0.15%以上を含む。	本品は、コラーゲンたん白質を加水分解して得られるポリペプチドと「イソステアリン酸」との縮合物の 3%イソステアリン酸溶液である。本品は、定量するとき、窒素（N:14.01）として 0.15%以上を含む。
イソステアロイル加水分解コラーゲン液（3）	本品は、コラーゲントタンパク質を加水分解して得られるポリペプチドとイソステアリン酸との縮合物の 25%「イソステアリン酸 2-ヘキシルデシル」溶液である。本品は、定量するとき、窒素（N:14.01）1.0～2.0%を含む。	本品は、コラーゲンたん白質を加水分解して得られるポリペプチドと「イソステアリン酸」との縮合物の 25%イソステアリン酸ヘキシルデシル溶液である。本品は定量するとき、窒素（N:14.01）として 1.0～2.0%含む。
イソステアロイル加水分解コラーゲン（4）	本品は、コラーゲントタンパク質を加水分解して得られるポリペプチドと、イソステアリン酸の縮合物である。本品は、定量するとき、窒素（N:14.01）4.0～10.0%を含む。	本品は、「イソステアリン酸」と「加水分解コラーゲン液」との縮合物である。本品は、定量するとき、窒素（N: 14.01）4.0～10.0%を含む。
エチレンジアミンヒドロキシエチル三酢酸三ナトリウム液	本品は、エチレンジアミンヒドロキシエチル三酢酸三ナトリウムの水溶液である。本品は、定量するとき、表示量の 90～110%のエチレンジアミンヒドロキシエチル三酢酸三ナトリウム三水合物（ $C_{10}H_{15}O_7N_2Na_3 \cdot 3H_2O$:398.25）を含む。	本品は、「エチレンジアミンヒドロキシエチル三酢酸三ナトリウム」の水溶液で、定量するとき、表示量の 90～110%のエチレンジアミンヒドロキシエチル三酢酸三ナトリウム（ $C_{10}H_{15}O_7N_2Na_3 \cdot 3H_2O$:398.25）を含む。
塩化ベンザルコニウム液	本品は、塩化ベンザルコニウムの水溶液である。本品は、定量するとき、表示量の 90～110%に対応する塩化ベンザルコニウム（ $C_{22}H_{40}ClN$: 354.01）を含む。	本品は、「塩化ベンザルコニウム」の水溶液である。本品は、定量するとき、表示量の 90～110%に対応する塩化ベンザルコニウム（ $C_{22}H_{40}ClN$: 354.01）を含む。
塩化ベンゼトニウム液	本品は、塩化ベンゼトニウムの水溶液である。本品は、定量するとき、表示量の 90.0～110.0%に対応する塩化ベンゼトニウム（ $C_{27}H_{42}ClNO_2$:448.08）を含む。	本品は、「塩化ベンゼトニウム」の水溶液である。本品は、定量するとき、表示量の 90.0～110.0%に対応する塩化ベンゼトニウム（ $C_{27}H_{42}ClNO_2$:448.08）を含む。
塩化ラウリルピリジニウム液	本品は、主として塩化ラウリルピリジニウムからなり、通常、「イソプロパノール」及び水の混液を含む。本品は、定量するとき、表示量の 90～110%に対応する塩化ラウリルピリジニウム（ $C_{17}H_{30}ClN$:283.88）を含む。	本品は、主として「塩化ラウリルピリジニウム」からなり、通常、「イソプロパノール」、水の混液を含む。本品は、定量するとき、表示量の 90～110%に対応する塩化ラウリルピリジニウム（ $C_{17}H_{30}ClN$:283.88）を含む。

塩酸モノエタノールアミン液	本品は、 <u>2-アミノエタノール塩酸塩</u> の水溶液である。本品は、 <u>定量するとき</u> 、 <u>2-アミノエタノール塩酸塩</u> ($\text{C}_2\text{H}_7\text{NO} \cdot \text{HCl}$: 97.54) として 58.0~62.0%を含む。	本品は、 <u>「モノエタノールアミン」の塩酸塩</u> の水溶液である。本品を <u>定量するとき</u> 、 <u>塩酸モノエタノールアミン</u> ($\text{C}_2\text{H}_7\text{NO} \cdot \text{HCl}$: 97.54) として 58.0~62.0%を含む。
1, 2-オクタジオール	(2) 重金属 本品 5.0g をとり、第 <u>2</u> 法により操作し、試験を行うとき、その限度は、5 ppm 以下である。ただし、比較液には、鉛標準液 2.5mL をとる。	(2) 重金属 本品 5.0g をとり、第 <u>1</u> 法により操作し、試験を行うとき、その限度は、5 ppm 以下である。ただし、比較液には、鉛標準液 2.5mL をとる。
オレイン酸ナトリウム	本品は、主としてオレイン酸のナトリウム塩 ($\text{C}_{18}\text{H}_{33}\text{NaO}_2$:304.44) からなる。	本品は、主として <u>「オレイン酸」</u> のナトリウム塩からなる。
カロチン植物油懸濁液	本品は、 <u>アブラヤシ <i>Elaeis guineensis</i> Jacq. (<i>Palmae</i>) の果実の果肉から得られる脂肪油</u> より分離したカロチンを植物油に懸濁したものである。本品は、定量するとき、カロチンを 29~34%含む。	本品は、 <u>「パーム油」</u> より分離したカロチンを植物油に懸濁したものである。本品は、定量するとき、カロチンを 29~34%含む。
d-カンフル	<p>定量法 本品及び d-カンフル標準品約 0.1g ずつを精密に量り、それぞれに内標準溶液 5 mL を正確に加えた後、エタノール (99.5) に溶かして<u>正確に</u> 100mL とし、試料溶液及び標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液 <u>1 μL ずつを正確にとり</u>、次の条件でガスクロマトグラフィーにより試験を行い、内標準物質のピーク面積に対する d-カンフルのピーク面積の比 Q_{r} 及び Q_{s} を求める。</p> $d\text{-カンフル } (\text{C}_{10}\text{H}_{16}\text{O}) \text{ の量 (mg)} = M_{\text{s}} \times \frac{Q_{\text{r}}}{Q_{\text{s}}}$ <p>M_{s}: d-カンフル標準品の秤取量 (mg) 内標準溶液 サリチル酸メチルのエタノール (99.5) 溶液 (1→25) 試験条件 検出器: 水素炎イオン化検出器 カラム: 内径 <u>0.25mm</u>、長さ <u>30m</u> の<u>フューズドシリカ管の内面</u>に、ガスクロマトグラフィー用ポリエチレングリコールを<u>厚さ 0.25μm で被覆</u>する。 カラム温度: 160℃付近の一定温度 キャリアーガス: 窒素<u>又はヘリウム</u> <u>注入口温度: 250℃</u> <u>検出器温度: 280℃</u> 流量: d-カンフルの保持時間が約 6 分になるように調整する。 <u>スプリット比: 1 : 20</u></p> <p>システム適合性 システムの性能: 標準溶液 <u>1 μL につき</u>、上記の条件で操作するとき、d-カンフル、内標準物質の順に流出し、その分離度は 7 以上である。</p>	<p>定量法 本品及び d-カンフル標準品約 0.1g ずつを精密に量り、それぞれに内標準溶液 5 mL を正確に加えた後、エタノール (99.5) に溶かして 100mL とし、試料溶液及び標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液 <u>2 μL につき</u>、次の条件でガスクロマトグラフィーにより試験を行い、内標準物質のピーク面積に対する d-カンフルのピーク面積の比 Q_{r} 及び Q_{s} を求める。</p> $d\text{-カンフル } (\text{C}_{10}\text{H}_{16}\text{O}) \text{ の量 (mg)} = M_{\text{s}} \times \frac{Q_{\text{r}}}{Q_{\text{s}}}$ <p>M_{s}: d-カンフル標準品の秤取量 (mg) 内標準溶液 サリチル酸メチルのエタノール (99.5) 溶液 (1→25) 試験条件 検出器: 水素炎イオン化検出器 カラム: 内径 <u>3mm</u>、長さ <u>3m</u> の<u>ガラス管</u>に、ガスクロマトグラフィー用ポリエチレングリコール <u>20M</u> を<u>シラン処理した 180~250μm のガスクロマトグラフィー用ケイソウ土に 10%の割合で被覆したものを充填</u>する。 カラム温度: 160℃付近の一定温度 キャリアーガス: 窒素 流量: d-カンフルの保持時間が約 6 分になるように調整する。</p> <p>システム適合性 システムの性能: 標準溶液 <u>2 μL につき</u>、上記の条件で操作するとき、d-カンフル、内標準物質の順に流出し、その分離度は 7 以上である。 システムの再現性: 標準溶液 <u>2 μL につき</u>、上記の条件で試験を 6 回繰り返すとき、内標準物質のピーク面積に対する d-カ</p>

	<p>システムの再現性：標準溶液 <u>1μL</u> につき，上記の条件で試験を6回繰り返すとき，内標準物質のピーク面積に対する <i>d</i>-カンフルのピーク面積の比の相対標準偏差は1.0%以下である。</p>	<p>ンフルのピーク面積の比の相対標準偏差は1.0%以下である。</p>
<i>d l</i> -カンフル	<p>定量法 本品及び <i>dl</i>-カンフル標準品約0.1g ずつを精密に量り，それぞれに内標準溶液5 mL を正確に加えた後，エタノール（99.5）に溶かして<u>正確に</u> 100mL とし，試料溶液及び標準溶液とする．試料溶液及び標準溶液 <u>1μL</u> <u>ずつを正確にとり</u>，次の条件でガスクロマトグラフィーにより試験を行い，内標準物質のピーク面積に対する <i>dl</i>-カンフルのピーク面積の比 Q_r 及び Q_s を求める．</p> <p><i>dl</i>-カンフル（$C_{10}H_{16}O$）の量 $(mg) = M_s \times \frac{Q_r}{Q_s}$ M_s：<i>dl</i>-カンフル標準品の秤取量（mg） 内標準溶液 サリチル酸メチルのエタノール（99.5）溶液（1→25） 試験条件 検出器：水素炎イオン化検出器 カラム：内径 <u>0.25mm</u>，長さ <u>30m</u> の<u>フューズドシリカ管の内面</u>に，ガスクロマトグラフィー用ポリエチレングリコールを<u>厚さ 0.25μm</u> で被覆する． カラム温度：160℃付近の一定温度 キャリアーガス：窒素<u>又はヘリウム</u> <u>注入口温度：250℃</u> <u>検出器温度：280℃</u> 流量：<i>dl</i>-カンフルの保持時間が約6分になるように調整する． <u>スプリット比：1：20</u> システム適合性 システムの性能：標準溶液 <u>1μL</u> につき，上記の条件で操作するとき，<i>dl</i>-カンフル，内標準物質の順に流出し，その分離度は7以上である． システムの再現性：標準溶液 <u>1μL</u> につき，上記の条件で試験を6回繰り返すとき，内標準物質のピーク面積に対する <i>dl</i>-カンフルのピーク面積の比の相対標準偏差は1.0%以下である。</p>	<p>定量法 本品及び <i>dl</i>-カンフル標準品約0.1g ずつを精密に量り，それぞれに内標準溶液5 mL を正確に加えた後，エタノール（99.5）に溶かして100mL とし，試料溶液及び標準溶液とする．試料溶液及び標準溶液 <u>2μL</u> <u>につき</u>，次の条件でガスクロマトグラフィーにより試験を行い，内標準物質のピーク面積に対する <i>dl</i>-カンフルのピーク面積の比 Q_r 及び Q_s を求める．</p> <p><i>dl</i>-カンフル（$C_{10}H_{16}O$）の量 $(mg) = M_s \times \frac{Q_r}{Q_s}$ M_s：<i>dl</i>-カンフル標準品の秤取量（mg） 内標準溶液 サリチル酸メチルのエタノール（99.5）溶液（1→25） 試験条件 検出器：水素炎イオン化検出器 カラム：内径 <u>3mm</u>，長さ <u>3m</u> の<u>ガラス管</u>に，ガスクロマトグラフィー用ポリエチレングリコール <u>20M</u> を<u>シラン処理した 180～250μm</u> のガスクロマトグラフィー用<u>ケイソウ土に 10%の割合で被覆したものを充填</u>する． カラム温度：160℃付近の一定温度 キャリアーガス：窒素 流量：<i>dl</i>-カンフルの保持時間が約6分になるように調整する． システム適合性 システムの性能：標準溶液 <u>2μL</u> につき，上記の条件で操作するとき，<i>dl</i>-カンフル，内標準物質の順に流出し，その分離度は7以上である． システムの再現性：標準溶液 <u>2μL</u> につき，上記の条件で試験を6回繰り返すとき，内標準物質のピーク面積に対する <i>dl</i>-カンフルのピーク面積の比の相対標準偏差は1.0%以下である。</p>
クエン酸ナトリウム	<p>本品は，クエン酸の<u>三ナトリウム塩の二水和物（$C_6H_5Na_3O_7 \cdot 2H_2O$:294.10）</u>である．本品を乾燥したものは，定量するとき，クエン酸ナトリウム（$C_6H_5Na_3O_7$:258.07）99.0%以上を含む．</p>	<p>本品は，「<u>クエン酸</u>」の<u>ナトリウム塩</u>である．本品を乾燥したものは，定量するとき，クエン酸ナトリウム（$C_6H_5Na_3O_7$:258.07）99.0%以上を含む．</p>
酢酸 <i>d</i> - α -トコフェロール	<p>純度試験</p>	<p>純度試験</p>

	<p>(3) α-トコフェロール 本品 0.10g をとり、ヘキサン 10mL を正確に加えて溶かし、試料溶液とする。別にトコフェロール標準品 0.050g をとり、ヘキサンに溶かし正確に 100mL とする。この液 1 mL を正確に量り、ヘキサンを加えて正確に 10mL とし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液 10μL につき、<u>ヘキサン／酢酸エチル／酢酸 (100) 混液 (17 : 2 : 1)</u> を展開溶媒として薄層クロマトグラフィーにより試験を行う。薄層板を風乾した後、これに塩化鉄 (III) 六水和物のエタノール (99.5) 溶液 (1→500) を均等に噴霧した後、更に 2, 2'-ビピリジルのエタノール (99.5) 溶液 (1→200) を均等に噴霧して 2～3 分間放置するとき、標準溶液から得たスポットに対応する位置の試料溶液から得たスポットは、標準溶液のスポットより小さくなく、かつ濃くない。</p>	<p>(3) α-トコフェロール 本品 0.10g をとり、ヘキサン 10mL を正確に加えて溶かし、試料溶液とする。別にトコフェロール標準品 0.050g をとり、ヘキサンに溶かし正確に 100mL とする。この液 1 mL を正確に量り、ヘキサンを加えて正確に 10mL とし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液 10μL につき、<u>トルエンと酢酸 (100) の混液 (19 : 1)</u> を展開溶媒として薄層クロマトグラフィーにより試験を行う。薄層板を風乾した後、これに塩化鉄 (III) 六水和物のエタノール (99.5) 溶液 (1→500) を均等に噴霧した後、更に 2, 2'-ビピリジルのエタノール (99.5) 溶液 (1→200) を均等に噴霧して 2～3 分間放置するとき、標準溶液から得たスポットに対応する位置の試料溶液から得たスポットは、標準溶液のスポットより小さくなく、かつ濃くない。</p>
サクシニルキトサン液	<p>本品は、<u>「キトサン」をサクシニル化したもの</u>の水溶液である。本品は、定量するとき、窒素 (N:14.01) 0.02～0.12% を含む。</p>	<p>本品は、<u>「サクシニルキトサン」</u>の水溶液である。本品は、定量するとき、窒素 (N:14.01) 0.02～0.12% を含む。</p>
サッカリンナトリウム	<p>本品は、サッカリンのナトリウム塩の<u>二水和物 (C₇H₄NNaO₃S·2H₂O:241.20)</u>である。本品を乾燥したものは、定量するとき、サッカリンナトリウム (C₇H₄NNaO₃S: 205.17) 98.0%以上を含む。</p>	<p>本品は、<u>「サッカリン」</u>のナトリウム塩である。本品を乾燥したものは、定量するとき、サッカリンナトリウム (C₇H₄NNaO₃S: 205.17) 98.0%以上を含む。</p>
ジステアリン酸ソルビタン	<p>本品は、主としてステアリン酸とソルビタンのジエステルからなる。</p>	<p>本品は、主として<u>「ステアリン酸」</u>とソルビタンのジエステルからなる。</p>
ジヘptaデシルケトン	<p>確認試験 (1) 本品につき、<u>赤外吸収スペクトル測定法の臭化カリウム錠剤法又は薄膜法により測定するとき、波数 2920cm⁻¹, 1705cm⁻¹, 1700cm⁻¹, 1470cm⁻¹, 1460cm⁻¹, 730cm⁻¹ 及び 720cm⁻¹ 付近に吸収を認める。</u></p>	<p>確認試験 (1) 本品 <u>0.1g にジオキサン 5 mL を加えて溶かし、これを試料溶液とする。試料溶液 1 mL に水酸化ナトリウム試液 1 mL を加え、水浴上でわずかに加温し、0.5mol/L ヨウ素試液 2～3 滴を滴加するとき、直ちに黄色の沈殿を生じる。</u></p>
植物性スクワラン	<p>本品は、オリーブ油、コメヌカ油、コムギ胚芽油、ゴマ油などの植物油から抽出されたスクワレンを水素添加したものである。本品は、<u>定量するとき、スクワラン (C₃₀H₆₂:422.81) 75.0%以上を含有する。</u></p>	<p>本品は、<u>「オリーブ油」</u>、<u>「コメヌカ油」</u>、<u>「コムギ胚芽油」</u>、<u>「ゴマ油」</u>などの植物油から抽出されたスクワレンを水素添加したものである。本品は定量するとき、スクワラン (C₃₀H₆₂:422.81) 75.0%以上を含有する。</p>
ジラウリン酸ジェチレングリコール	<p>確認試験 本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数 2920cm⁻¹, <u>1730cm⁻¹</u>, <u>1475cm⁻¹</u> 及び <u>1185cm⁻¹</u> 付近に吸収を認める。</p>	<p>確認試験 本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数 2920cm⁻¹, <u>1740cm⁻¹</u>, <u>1465cm⁻¹</u> 及び <u>1175cm⁻¹</u> 付近に吸収を認める。</p>
親油型モノステアリン酸グリセリル	<p>本品は、主としてステアリン酸とグリセリンのモノエステルからなり、ジエステ</p>	<p>本品は、主として<u>「ステアリン酸」</u>とグリセリンのモノエステルからなり、ジエ</p>

	ル，トリエステル，未反応のグリセリン等を含む。	ステル，トリエステル等も含むモノステアリン酸グリセリルからなり，ジステアリン酸グリセリル，トリステアリン酸グリセリル，未反応のグリセリンなどを含む。
ステアリン酸亜鉛	本品は，主としてステアリン酸の亜鉛塩 ($C_{36}H_{70}O_4Zn:632.33$) からなる。本品を乾燥したものは，定量するとき，亜鉛 ($Zn:65.38$) 10.0～12.5%を含む。	本品は，主として「ステアリン酸」の亜鉛塩である。本品を乾燥したものは，定量するとき，亜鉛 ($Zn:65.38$) 10.0～12.5%を含む。
ステアリン酸カルシウム	本品は，主としてステアリン酸のカルシウム塩 ($C_{36}H_{70}CaO_4:607.02$) からなる。本品を乾燥したものは，定量するとき，カルシウム ($Ca:40.08$) 6.4～7.1%を含む。	本品は，主として「ステアリン酸」のカルシウム塩である。本品を乾燥したものは，定量するとき，カルシウム ($Ca:40.08$) 6.4～7.1%を含む。
ステアリン酸ジェチレングリコール	確認試験 本品につき，赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき，波数 $2920cm^{-1}$ ， $2850cm^{-1}$ ， $1740 \sim 1725cm^{-1}$ ， $1470cm^{-1}$ 及び $1135cm^{-1}$ 付近に吸収を認める。	確認試験 本品につき，赤外吸収スペクトル測定法の液膜法により測定するとき，波数 $2920cm^{-1}$ ， $2850cm^{-1}$ ， $1740 \sim 1725cm^{-1}$ ， $1470cm^{-1}$ 及び $1135cm^{-1}$ 付近に吸収を認める。
ステアリン酸トリエタノールアミン	本品は，主としてステアリン酸のトリエタノールアミン塩 ($C_{24}H_{51}NO_5:433.67$) からなる。	本品は，主として「ステアリン酸」のトリエタノールアミン塩からなる。
ステアリン酸ナトリウム	本品は，主としてステアリン酸のナトリウム塩 ($C_{18}H_{35}NaO_2:306.46$) からなる。	本品は，主として「ステアリン酸」のナトリウム塩からなる。
ステアリン酸マグネシウム	本品は，主としてステアリン酸のマグネシウム塩 ($C_{36}H_{70}MgO_4:591.24$) からなる。本品を乾燥したものは，定量するとき，マグネシウム ($Mg:24.31$) 4.0～5.0%を含む。	本品は，主として「ステアリン酸」のマグネシウム塩である。本品を乾燥したものは，定量するとき，マグネシウム ($Mg:24.31$) 4.0～5.0%を含む。
ステアリン酸モノエタノールアミド	確認試験 (4) (3) のジェチルエーテル抽出後の水層に水を加えて 60mL とし，その 10mL をとり，水浴上で蒸発乾固して遊離塩酸を除去する。残留物 0.02g をとり，メタノール 10mL を加えて溶かし，これを試料溶液とする。別に 2-アミノエタノール 0.02g をとり，メタノール 10mL を加えて溶かし，標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液各 5 μ L ずつを薄層上にスポットし，クロロホルム／メタノール／アンモニア水 (28) 混液 (13 : 7 : 2) を展開溶媒として薄層クロマトグラフィーにより試験を行う。薄層板を風乾し，ヨウ素を飽和した密閉容器中に放置するとき，黄褐色のスポットを認め，その主なスポットの R_f 値は，標準溶液の主なスポットのそれと等しい。	確認試験 (4) (3) のジェチルエーテル抽出後の水層に水を加えて 60mL とし，その 10mL をとり，水浴上で蒸発乾固して遊離塩酸を除去する。残留物 0.02g をとり，メタノール 10mL を加えて溶かし，これを試料溶液とする。別に「モノエタノールアミン」0.02g をとり，メタノール 10mL を加えて溶かし，標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液各 5 μ L ずつを薄層上にスポットし，クロロホルム／メタノール／アンモニア水 (28) 混液 (13 : 7 : 2) を展開溶媒として薄層クロマトグラフィーにより試験を行う。薄層板を風乾し，ヨウ素を飽和した密閉容器中に放置するとき，黄褐色のスポットを認め，その主なスポットの R_f 値は，標準溶液の主なスポットのそれと等しい。
ステアロイルグルタミン酸ジオクチルドデシル	確認試験 本品につき，赤外吸収スペクトル測定法の液膜法により測定するとき，波数 $2920cm^{-1}$ ， $2850cm^{-1}$ ， $1735cm^{-1}$ ， $1655cm^{-1}$ 及び $1465cm^{-1}$ に吸収を認める。	確認試験 本品につき，赤外吸収スペクトル測定法の液膜法により測定するとき，波数 $2920cm^{-1}$ ， $2850cm^{-1}$ ， $1735cm^{-1}$ ， $1645cm^{-1}$ 及び $1465cm^{-1}$ に吸収を認める。

N-ステアロイル フィトスフィンゴ シン	本品は、酵母 <i>Wickerhamomyces</i> の代謝産物を加熱ろ過して得たフィトスフィンゴシンをステアリン酸でアシル化したもので、主としてN-ステアロイルフィトスフィンゴシン ($C_{36}H_{73}NO_4$:583.97) からなる。	本品は、酵母 <i>Saccharomyces</i> の代謝産物を加熱ろ過して得たフィトスフィンゴシンをステアリン酸でアシル化したもので、主としてN-ステアロイルフィトスフィンゴシン ($C_{36}H_{73}NO_4$:583.97) からなる。
スルホコハク酸ジ (2-エチルヘキシル) ナトリウム 液	本品は、スルホコハク酸ジ (2-エチルヘキシル) ナトリウムの溶液で、「イソプロパノール」、「エタノール」、「プロピレングリコール」、水又はこれらの混液を含む。本品は、 <u>定量するとき</u> 、スルホコハク酸ジ (2-エチルヘキシル) ナトリウム ($C_{20}H_{37}NaO_7S$:444.56) として表示量の 90~110%を含む。	本品は、 <u>「スルホコハク酸ジ (2-エチルヘキシル) ナトリウム」</u> の溶液で、「イソプロパノール」、「エタノール」、「プロピレングリコール」、水又はこれらの混液を含む。本品は <u>定量するとき</u> 、スルホコハク酸ジ (2-エチルヘキシル) ナトリウム ($C_{20}H_{37}NaO_7S$:444.56) として表示量の <u>90%~110%</u> を含む。
セスキイソステアリン酸ソルビタン	本品は、主としてイソステアリン酸とソルビタンのモノ <u>エステル</u> 及びジエステル <u>からなる</u> 。	本品は、主としてイソステアリン酸とソルビタンのモノ及びジエステル <u>の混合物である</u> 。
セスキオレイン酸ソルビタン	本品は、主としてオレイン酸とソルビタンの <u>モノエステル及びジエステル</u> からなる。	本品は、主として <u>「オレイン酸」</u> とソルビタン <u>及びソルバイドのジエステル及びモノエステル</u> からなる。
セスキステアリン酸ソルビタン	本品は、主としてステアリン酸とソルビタンの <u>モノエステル及びジエステル</u> からなる。	本品は、主として <u>「ステアリン酸」</u> とソルビタン <u>及びソルバイドのジエステル及びモノエステル</u> からなる。
セトステアリル硫酸ナトリウム	本品は、主として「セトステアリルアルコール」の <u>硫酸エステル</u> のナトリウム塩からなる。	本品は、主として「セトステアリルアルコール」の <u>スルホン化物</u> のナトリウム塩からなる。
ソルビット液	本品は、ソルビットの水溶液である。本品は、 <u>定量するとき</u> 、 <u>ソルビット</u> ($C_6H_{14}O_6$:182.17) として表示量の <u>97~103%</u> を含む。	本品は、 <u>「ソルビット」</u> の水溶液である。本品は、 <u>定量するとき</u> 、 <u>表示量の 97~103% に対応するソルビット</u> ($C_6H_{14}O_6$:182.17) を含む。
第三ブタノール	比重 d_{25}^{25} : 0.778~ <u>0.785</u> (第1法)	比重 d_{25}^{25} : 0.778~ <u>0.782</u> (第1法)
デキストラン	強熱 <u>残分</u> 0.20%以下 (第3法, 1g)	強熱 <u>減量</u> 0.20%以下 (第3法, 1g)
デキストラン硫酸ナトリウム	本品は、デキストランの <u>硫酸エステル</u> のナトリウム塩である。本品を乾燥したものは、 <u>定量するとき</u> 、イオウ (S:32.07) 15.0~20.0%を含む。	本品は、 <u>「デキストラン」</u> の <u>スルホン化物</u> のナトリウム塩である。本品を乾燥したものは、 <u>定量するとき</u> 、イオウ (S:32.07) として 15.0~20.0%を含む。
ドデシルベンゼン スルホン酸トリエタノールアミン液	本品は、主としてドデシルベンゼンスルホン酸トリエタノールアミンからなる水溶液である。本品は、 <u>定量するとき</u> 、ドデシルベンゼンスルホン酸トリエタノールアミン ($C_{24}H_{45}NO_6S$:475.68) として表示量の 90~110%を含む。	本品は、主として <u>「ドデシルベンゼンスルホン酸」</u> のトリエタノールアミン <u>塩</u> からなる水溶液である。本品は、 <u>定量するとき</u> 、ドデシルベンゼンスルホン酸トリエタノールアミン ($C_{24}H_{45}NO_6S$:475.68) として表示量の 90~110%を含む。
ドデシルベンゼン スルホン酸ナトリウム	本品は、主としてドデシルベンゼンスルホン酸のナトリウム塩 ($C_{18}H_{29}NaO_3S$:348.48) からなる。	本品は、主として <u>「ドデシルベンゼンスルホン酸」</u> のナトリウム塩 ($C_{18}H_{29}NaO_3S$:348.48) からなる。
ドデシルベンゼン スルホン酸ナトリウム	本品は、ドデシルベンゼンスルホン酸ナトリウムの水溶液である。本品は、 <u>定量</u>	本品は、 <u>「ドデシルベンゼンスルホン酸ナトリウム」</u> の水溶液である。本品は <u>定量</u>

ウム液	するとき、 <u>ドデシルベンゼンスルホン酸ナトリウム</u> ($C_{18}H_{29}NaO_3S$:348.48) として表示量の 90～110%を含む。	するときドデシルベンゼンスルホン酸ナトリウム ($C_{18}H_{29}NaO_3S$:348.48) として表示量の 90～110%を含む。
トリオレイン酸ソルビタン	本品は、主としてオレイン酸とソルビタンの <u>トリエステルからなる</u> 。	本品は、主として「 <u>オレイン酸</u> 」とソルビタン <u>からなるトリエステルである</u> 。
2, 4, 6-トリス[4-(2-エチルヘキシルオキシカルボニル)アニリノ]-1, 3, 5-トリアジン	<p>性状 本品は、<u>白色</u>～黄色の粉末で、わずかに特異なにおいがある。</p> <p>純度試験</p> <p>(3) 類縁物質 本品約 0.01g を精密に量り、エタノール (<u>99.5</u>) に溶かして正確に 100mL とし試料溶液とする。試料溶液 1 mL を正確にとり、エタノール (<u>99.5</u>) を加えて正確に 100mL とし、比較液とする。試料溶液及び比較液 20μL につき、次の条件で液体クロマトグラフィーにより試験を行うとき、試料溶液から得られたクロマトグラムの 2, 4, 6-トリス[4-(2-エチルヘキシルオキシカルボニル)アニリノ]-1, 3, 5-トリアジン以外のピークのピーク面積百分率の合計は、1.0%以下である。</p> <p><u>試験条件</u></p> <p>検出器：紫外吸光光度計（測定波長：300nm）</p> <p>カラム：内径 4 mm，長さ 250mm のステンレス管に 5μm のシアノプロピルシリル化シリカゲルを充填する。</p> <p>カラム温度：30℃付近の一定温度</p> <p>移動相：<u>n</u>-ヘプタン$\angle$エタノール (<u>99.5</u>) 混液 (<u>5 : 1</u>)</p> <p>流量：毎分 1.2mL 付近の一定量</p> <p>検出感度：比較液 20μL から得た 2, 4, 6-トリス[4-(2-エチルヘキシルオキシカルボニル)アニリノ]-1, 3, 5-トリアジンのピーク高さが 10mm 以上になるように調整する。</p> <p>面積測定範囲：2, 4, 6-トリス[4-(2-エチルヘキシルオキシカルボニル)アニリノ]-1, 3, 5-トリアジンの保持時間の約 2 倍の範囲</p> <p>定量法 本品約 0.1g を精密に量り、エタノール (<u>99.5</u>) に溶かして正確に 100mL とする。この液を正確に 1 mL とり、エタノール (<u>99.5</u>) を加えて正確に 10mL と</p>	<p>性状 本品は、<u>淡黄色</u>～黄色の粉末で、わずかに特異なにおいがある。</p> <p>純度試験</p> <p>(3) 類縁物質 本品約 0.01g を精密に量り、エタノール (<u>95</u>) に溶かして正確に 100mL とし試料溶液とする。試料溶液 1 mL を正確にとり、エタノール (<u>95</u>) を加えて正確に 100mL とし、比較液とする。試料溶液及び比較液 20μL につき、次の条件で液体クロマトグラフィーにより試験を行うとき、試料溶液から得られたクロマトグラムの 2, 4, 6-トリス[4-(2-エチルヘキシルオキシカルボニル)アニリノ]-1, 3, 5-トリアジン以外のピークのピーク面積百分率の合計は、1.0%以下である。</p> <p><u>操作条件</u></p> <p>検出器：紫外吸光光度計（測定波長：300nm）</p> <p>カラム：内径 4 mm，長さ 250mm のステンレス管に 5μm のシアノプロピルシリル化シリカゲルを充填する。</p> <p>カラム温度：30℃付近の一定温度</p> <p>移動相：<u>n</u>-ヘプタン<u>と</u>エタノール (<u>95</u>) の混液 (<u>167 : 33</u>)</p> <p>流量：毎分 1.2mL 付近の一定量</p> <p>検出感度：比較液 20μL から得た 2, 4, 6-トリス[4-(2-エチルヘキシルオキシカルボニル)アニリノ]-1, 3, 5-トリアジンのピーク高さが 10mm 以上になるように調整する。</p> <p>面積測定範囲：2, 4, 6-トリス[4-(2-エチルヘキシルオキシカルボニル)アニリノ]-1, 3, 5-トリアジンの保持時間の約 2 倍の範囲</p> <p>定量法 本品約 0.1g を精密に量り、エタノール (<u>95</u>) に溶かして正確に 100mL とする。この液を正確に 1 mL とり、エタノール (<u>95</u>) を加えて正確に 10mL とし、こ</p>

	<p>し、この液を正確に 5 mL とり、内標準溶液を正確に 5 mL 加え、更にエタノール (99.5) を加えて 100mL とし試料溶液とする。別に標準品 (注) 約 0.01g を精密に量り、エタノール (99.5) に溶かして正確に 100mL とする。この液を正確に 5 mL とり、内標準溶液を正確に 5 mL 加え、更にエタノール (99.5) を加えて 100mL とし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液 20μL につき、次の条件で液体クロマトグラフィーにより試験を行い、内標準物質のピーク面積に対する 2, 4, 6-トリス [4-(2-エチルヘキシルオキシカルボニル) アニリノ] -1, 3, 5-トリアジンのピーク面積の比 Q_r 及び Q_s を求める。</p> <p>定量値 (%) $= \frac{M_2}{M_1} \times \frac{Q_r}{Q_s} \times 10 \times 100$</p> <p>$M_1$: 試料の採取量 (g) M_2: 標準品の採取量 (g) 内標準溶液: ケイ皮酸エチルのエタノール (99.5) 溶液 (1→10000) <u>試験条件</u> 検出器: 紫外吸光光度計 (測定波長: 300nm) カラム: 内径 4 mm, 長さ 250mm のステンレス管に 5 μm のシアノプロピルシリル化シリカゲルを充填する。 カラム温度: 30℃付近の一定温度 移動相: n-ヘプタン / エタノール (99.5) 混液 (5:1) 流量: 毎分 1.2mL 付近の一定量 (注) 標準品: 本品 5 g をエタノール (99.5) 100g に加温して溶解する。これを 5℃に保ち、析出してくる結晶をろ過し、減圧下、80℃に加温し乾燥する。</p>	<p>の液を正確に 5 mL とり、内標準溶液を正確に 5 mL 加え、更にエタノール (95) を加えて 100mL とし試料溶液とする。別に標準品 (注) 約 0.01g を精密に量り、エタノール (95) に溶かして正確に 100mL とする。この液を正確に 5 mL とり、内標準溶液を正確に 5 mL 加え、更にエタノール (95) を加えて 100mL とし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液 20μL につき、次の条件で液体クロマトグラフィーにより試験を行い、内標準物質のピーク面積に対する 2, 4, 6-トリス [4-(2-エチルヘキシルオキシカルボニル) アニリノ] -1, 3, 5-トリアジンのピーク面積の比 Q_r 及び Q_s を求める。</p> <p>定量値 (%) $= \frac{M_2}{M_1} \times \frac{Q_r}{Q_s} \times 100$</p> <p>$M_1$: 試料の採取量 (g) M_2: 標準品の採取量 (g) 内標準溶液: ケイ皮酸エチルのエタノール (95) 溶液 (1→10000) <u>操作条件</u> 検出器: 紫外吸光光度計 (測定波長: 300nm) カラム: 内径 4 mm, 長さ 250mm のステンレス管に 5 μm のシアノプロピルシリル化シリカゲルを充填する。 カラム温度: 30℃付近の一定温度 移動相: n-ヘプタン と エタノール (95) の混液 (5:1) 流量: 毎分 1.2mL 付近の一定量 (注) 標準品: 本品 5 g をエタノール (95) 100g に加温して溶解する。これを 5℃に保ち、析出してくる結晶をろ過し、減圧下、80℃に加温し乾燥する。</p>
トリステアリン酸 ソルビタン	本品は、主としてステアリン酸とソルビタンのトリエステルからなる。	本品は、主として「ステアリン酸」とソルビタンのトリエステルからなる。
トリベヘン酸グリ セリル	<p>確認試験 本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の臭化カリウム錠剤法により測定するとき、波数 2920cm⁻¹, 1740cm⁻¹, 1470cm⁻¹, 1170cm⁻¹ 及び 1110cm⁻¹ 付近に吸収を認める。</p> <p>けん化価 155~180</p>	<p>確認試験 本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の臭化カリウム錠剤法により測定するとき、波数 2920cm⁻¹, 1740cm⁻¹, 1470cm⁻¹, 1175cm⁻¹ 及び 1105cm⁻¹ 付近に吸収を認める。</p> <p>けん化価 165~180</p>
トリ (ポリオキシ エチレンイソステ アリン酸) トリメ チロールプロパン	<p>確認試験 本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の液膜法により試験を行うとき、波数 2920cm⁻¹, 2850cm⁻¹, 1740cm⁻¹, 1465cm⁻¹ 及び 1115cm⁻¹ 付近</p>	<p>確認試験 本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の液膜法により試験を行うとき、波数 2920cm⁻¹, 2850cm⁻¹, 1740cm⁻¹, 1460cm⁻¹ 及び 1105cm⁻¹ 付近</p>

(3E. O.)	に吸収を認める.	に吸収を認める.
トレハロース液	本品は、トレハロース (<u>C₁₂H₂₂O₁₁:342.30</u>) の水溶液である.	本品は、 <u>「トレハロース」</u> の水溶液である.
α-ナフトール	確認試験 (3) 本品及び1-ナフトールのそれぞれ 0.01g に2-プロパノール/水/アンモニア水 (28) 混液 (9:3:1) 1mL ずつを加えて溶かした後、更にそれぞれに亜硫酸水素ナトリウム 0.1g を加えて振り混ぜ、試料溶液及び標準溶液とする. 試料溶液及び標準溶液 1 μL ずつを薄層板にスポットし、ヘキサン/アセトン混液 (2:1) を展開溶媒として薄層クロマトグラフィーにより試験を行う. 薄層板にリンモリブデン酸試液を噴霧するとき、1-ナフトールと等しい <i>R_f</i> 値に青色～紫色のスポットを認める.	確認試験 (3) 本品及び1-ナフトールのそれぞれ 0.01g に2-プロパノール/水/アンモニア水 (28) 混液 (9:3:1) 1mL ずつを加えて溶かした後、更にそれぞれに亜硫酸水素ナトリウム 0.1g を加えて振り混ぜ、試料溶液及び標準溶液とする. 試料溶液及び標準溶液 1 μL ずつを薄層板にスポットし、ヘキサン/アセトン <u>「クロロホルム」</u> 混液 (2:1 <u>: 1</u>) を展開溶媒として薄層クロマトグラフィーにより試験を行う. 薄層板にリンモリブデン酸試液を噴霧するとき、1-ナフトールと等しい <i>R_f</i> 値に青色～紫色のスポットを認める.
パーム核油脂肪酸 ジエタノールアミ ド (2)	確認試験 (2) 本品 3g に薄めた塩酸 (3→5) 60mL を加え、還流冷却器を付け、時々振り混ぜながら3時間水浴上で加熱する. 冷後、ジエチルエーテル 100mL ずつで2回抽出する. ジエチルエーテル抽出液を合わせ、水 50mL ずつで洗液がメチルオレンジ試液5滴によっても赤色を呈しなくなるまで洗った後、ジエチルエーテル層に無水硫酸ナトリウム 5g を加え、よく振り混ぜ、30分間放置した後、ろ過する. ろ液を水浴上で加熱してジエチルエーテルを留去する. 残留物につき、脂肪酸 <u>試験法</u> 第2法により操作し、試験を行うとき、溶媒ピークを除き、試料溶液の主なピークの保持時間は、標準溶液のピークの保持時間に一致する. ただし、標準溶液には、ガスクロマトグラフィー用ラウリン酸メチル及びガスクロマトグラフィー用オレイン酸メチルそれぞれ 10mg をとり、ヘキサン 3mL を加えて溶かしたものをを用いる.	確認試験 (2) 本品 3g に薄めた塩酸 (3→5) 60mL を加え、還流冷却器を付け、時々振り混ぜながら3時間水浴上で加熱する. 冷後、ジエチルエーテル 100mL ずつで2回抽出する. ジエチルエーテル抽出液を合わせ、水 50mL ずつで洗液がメチルオレンジ試液5滴によっても赤色を呈しなくなるまで洗った後、ジエチルエーテル層に無水硫酸ナトリウム 5g を加え、よく振り混ぜ、30分間放置した後、ろ過する. ろ液を水浴上で加熱してジエチルエーテルを留去する. 残留物につき、脂肪酸 <u>測定法</u> 第2法により操作し、試験を行うとき、溶媒ピークを除き、試料溶液の主なピークの保持時間は、標準溶液のピークの保持時間に一致する. ただし、標準溶液には、ガスクロマトグラフィー用ラウリン酸メチル及びガスクロマトグラフィー用オレイン酸メチルそれぞれ 10mg をとり、ヘキサン 3mL を加えて溶かしたものをを用いる.
パルミチン酸カリウム	本品は、主としてパルミチン酸のカリウム塩 (C ₁₆ H ₃₁ KO ₂ :294.51) からなる.	本品は、主として <u>「パルミチン酸」</u> のカリウム塩 (C ₁₆ H ₃₁ KO ₂ :294.51) からなる.
パルミチン酸ナトリウム	本品は、主としてパルミチン酸のナトリウム塩 (C ₁₆ H ₃₁ NaO ₂ :278.41) からなる.	本品は、主として <u>「パルミチン酸」</u> のナトリウム塩 (C ₁₆ H ₃₁ NaO ₂ :278.41) からなる.
ヒノキチオール	融点 48～ <u>53</u> °C (第1法)	融点 48～ <u>52</u> °C (第1法)

	<p>定量法 本品を乾燥し、その約 <u>0.02g</u> を精密に量り、<u>メタノール</u>を加えて溶かし、<u>正確に 100mL</u> とする。この液 <u>2.5mL</u> を<u>正確に量り</u>、<u>メタノールを加えて正確に 100mL</u> とし、<u>試料溶液とする</u>。別に、<u>定量用ヒノキチオールを乾燥し</u>、その約 <u>0.02g</u> を精密に量り、<u>メタノールを加えて溶かし、正確に 100mL</u> とする。この液 <u>2.5mL</u> を<u>正確に量り</u>、<u>メタノールを加えて正確に 100mL</u> とし、<u>標準溶液とする</u>。<u>試料溶液及び標準溶液 10μL ずつを正確にとり</u>、次の条件で液体クロマトグラフィーにより試験を行い、それぞれの液のヒノキチオールのピーク面積 A_T 及び A_S を測定する。</p> $\begin{array}{l} \text{ヒノキチオール} \\ (\text{C}_{10}\text{H}_{12}\text{O}_2) \text{ の量 (mg)} \\ = \end{array} \frac{M_S \times A_T}{A_S}$ <p><u>M_S : ヒノキチオール標準の秤取量 (mg)</u></p> <p><u>試験条件</u></p> <p><u>検出器 : 紫外吸光光度計(測定波長 : 240nm)</u></p> <p><u>カラム : 内径 4.6mm, 長さ 15 又は 25cm のステンレス管に 5μm の液体クロマトグラフィー用オクタデシルシリル化シリカゲルを充填する。</u></p> <p><u>カラム温度 : 40℃付近の一定温度</u></p> <p><u>流量 : ヒノキチオールの保持時間が約 10 分になるように調整する。</u></p> <p><u>移動相 : クエン酸一水和物 3.5g, クエン酸三ナトリウム二水和物 3.0g, エチレンジアミン四酢酸二水素二ナトリウム二水和物 0.32g を水 500mL に溶かす。この液 40mL を量り、水を加えて 400mL とし、メタノール 600mL を加えて混和する。</u></p> <p><u>システム適合性</u></p> <p><u>システムの性能 : 標準溶液 10μL につき、上記の条件で操作するとき、ヒノキチオールのピークの理論段数及びシンメトリー係数は、それぞれ 5000 段以上、2.0 以下である。</u></p> <p><u>システムの再現性 : 標準溶液 10μL につき、上記の条件で試験を 6 回繰り返すとき、ヒノキチオールのピーク面積の相対標準偏差は 2.0% 以下である。</u></p>	<p>定量法 本品を乾燥し、その約 <u>0.03g</u> を精密に量り、<u>ヘキサン</u>を加えて溶かし、<u>100mL</u> とする。この液 <u>10mL</u> に<u>ヘキサンを加えて 100mL</u> とする。更にこの液 <u>20mL</u> を分液漏斗にとり、<u>クロロホルム 20mL</u> 及び<u>酢酸鉄(Ⅲ)試液 10mL</u> を加え、<u>5 分間激しく振り混ぜて放置した後</u>、<u>ヘキサン・クロロホルム層を分取する</u>。水層に<u>クロロホルム 8 mL</u> を加え、<u>5 分間激しく振り混ぜた後</u>、<u>クロロホルム層を分取し、前のヘキサン・クロロホルム層に合わせ、クロロホルムを加えて 50mL とする</u>。この液について<u>クロロホルムとヘキサンの混液 (3 : 2) を対照液とし、層長 10mm, 波長 425nm で吸光度 A を測定する</u>。</p> $\begin{array}{l} \text{ヒノキチオール} \\ (\text{C}_{10}\text{H}_{12}\text{O}_2) \text{ の量 (mg)} \\ = \end{array} \frac{A}{58} \times 5000$
<p>ピリチオン亜鉛水性懸濁液</p>	<p>定量法 本品の表示量に従い、ピリチオン亜鉛約 0.3g に対応する量を精密に量り、塩酸 20mL を加えて溶かし、更に水 200mL を加え、直ちに 0.05mol/L ヨウ素液で滴定する（指示薬：<u>デンプン試液 3</u></p>	<p>定量法 本品の表示量に従い、ピリチオン亜鉛約 0.3g に対応する量を精密に量り、塩酸 20mL を加えて溶かし、更に水 200mL を加え、直ちに 0.05mol/L ヨウ素液で滴定する（指示薬：<u>デンプン試液 3</u></p>

	mL). 同様の方法で空試験を行い補正する.	mL). 同様の方法で空試験を行い補正する.
DL-ピロリドンカルボン酸ナトリウム液	本品は、DL-ピロリドンカルボン酸ナトリウムの水溶液である。本品は、定量するとき、DL-ピロリドンカルボン酸ナトリウム ($C_5H_6NNaO_3 \cdot 151.10$) として 48.0~52.0%を含む。	本品は、 <u>「DL-ピロリドンカルボン酸」のナトリウム塩</u> の水溶液である。本品は、定量するとき、DL-ピロリドンカルボン酸ナトリウム ($C_5H_6NNaO_3 \cdot 151.10$) として 48.0~52.0%を含む。
ベンジルアルコール	確認試験 本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の液膜法により測定するとき、波数 <u>3330cm^{-1}、2870cm^{-1}、1455cm^{-1}、1020cm^{-1}、735cm^{-1} 及び 700cm^{-1} 付近に吸収を認める。</u>	確認試験 本品 3 滴に過マンガン酸カリウム溶液 (1→20) 5 mL を加え、希硫酸 2 mL を加え 2 分間振り混ぜ、更にクロロホルム 20 mL を加えて振り混ぜた後、クロロホルム層をとり、これを水浴上で蒸発するとき、残留物は、ベンズアルデヒドのようなにおいが発生する。この残留物をエタノール (95) 5 mL に溶かし、2, 4-ジニトロフェニルヒドラジン試液 1 mL を加えるとき、橙色の沈殿を生じる。
ポリアミドエピクロロヒドリン樹脂液 (1)	本品は、ポリアミドエピクロロヒドリン樹脂の水溶液である。	本品は、 <u>「ポリアミドエピクロロヒドリン樹脂」</u> の水溶液である。
ポリアミドエピクロロヒドリン樹脂液 (2)	本品は、ポリアミドエピクロロヒドリン樹脂の水溶液である。	本品は、 <u>「ポリアミドエピクロロヒドリン樹脂」</u> の水溶液である。
ポリエチレンイミン液	確認試験 (1) 本品の水溶液 (1→10) <u>5 mL</u> に酢酸カルシウム一水和物溶液 (1→20) <u>5 mL</u> を加えて、更に酢酸銅 (II) 一水和物溶液 (1→250) 3 滴を静かに滴加するとき、 <u>接界面</u> は、濃青色を呈する。	確認試験 (1) 本品の水溶液 (1→10) <u>100 mL</u> に酢酸カルシウム一水和物溶液 (1→20) を加えて <u>pH を 5~6 に調整し</u> 、更に酢酸銅 (II) 一水和物溶液 (1→250) 3 滴を滴加するとき、 <u>液</u> は、濃青色を呈する。
ポリオキシエチレンアルキル (11, 13, 15) エーテル硫酸ナトリウム (1 E. O.)	本品は、主として炭素数 11, 13 及び 15 のアルキル基を有するアルコールに酸化エチレンを付加重合して得られるものの硫酸エステルナトリウム塩からなる。本品は、定量するとき、ポリオキシエチレンアルキル (11, 13, 15) エーテル硫酸ナトリウム (1 E. O.) (平均分子量: 358.34) として表示量の 90~110%を含む。	本品は、主として炭素数 11, 13 及び 15 のアルキル基を有するアルコールに酸化エチレンを付加重合して得られるものの硫酸エステルナトリウム塩からなる。本品は、定量するとき、ポリオキシエチレンアルキル (11, 13, 15) エーテル硫酸ナトリウム (1 E. O.) (平均分子量: 358.34) として表示量の 90~110%の <u>ポリオキシエチレンアルキル (11, 13, 15) エーテル硫酸ナトリウム (1 E. O.)</u> を含む。
ポリオキシエチレンポリオキシプロピレンヘキシレングリコールエーテル (300 E. O.) (75 P. O.)	本品は、ヘキシレングリコールに酸化プロピレン及び酸化エチレンを付加重合したもので、平均重合度は、それぞれ約 75 及び約 300 である。	本品は、 <u>「ヘキシレングリコール」</u> に酸化プロピレン及び <u>エチレン酸化</u> を付加重合したもので、平均重合度は、それぞれ約 75 及び約 300 である。
ポリオキシエチレンミリスチルエー	本品は、主としてポリオキシエチレンミリスチルエーテル硫酸ナトリウムからな	本品は、主として <u>ミリスチルエーテル硫酸ナトリウムに酸化エチレンを付加重合</u>

テル硫酸ナトリウム (3E. O.) 液	り、酸化エチレンの平均付加モル数は3である。本品は、定量するとき、ポリオキシエチレンミリスチルエーテル硫酸ナトリウム (3E. O.) として表示量の 90～110%を含む。	<u>したものであり</u> 、ポリオキシエチレンミリスチルエーテル硫酸ナトリウムからなり、酸化エチレンの平均付加モル数は3である。本品は、定量するとき、ポリオキシエチレンミリスチルエーテル硫酸ナトリウム (3E. O.) として表示量の 90～110%を含む。
ポリオキシエチレンラウリルエーテル酢酸カリウム液	本品は、主としてポリオキシエチレンラウリルエーテル酢酸のカリウム塩 <u>からなる</u> 水溶液である。酸化エチレンの平均付加モル数は 4.5～10 である。	本品は、主として「 <u>ポリオキシエチレンラウリルエーテル酢酸</u> 」の <u>カリウム塩</u> の水溶液である。酸化エチレンの平均付加モル数は 4.5～10 である。
ポリオキシエチレンラウリルエーテル酢酸ナトリウム	本品は、主としてポリオキシエチレンラウリルエーテル酢酸のナトリウム塩からなり、水を含むものもある。酸化エチレンの平均付加モル数は、3～16 である。	本品は、主として「 <u>ポリオキシエチレンラウリルエーテル酢酸</u> 」の <u>ナトリウム塩</u> からなり、水を含むものもある。酸化エチレンの平均付加モル数は、3～16 である。
ポリオキシエチレンラウリルエーテル酢酸ナトリウム (16E. O.) 液	本品は、主としてポリオキシエチレンラウリルエーテル酢酸のナトリウム塩 <u>からなる</u> 水溶液である。酸化エチレンの平均付加モル数は 16 である。本品は、定量するとき、ポリオキシエチレンラウリルエーテル酢酸ナトリウム ($C_{46}H_{91}NaO_{19}$; 971.19) 19.8～24.2%を含む。	本品は、主として「 <u>ポリオキシエチレンラウリルエーテル酢酸</u> 」の <u>ナトリウム塩</u> の水溶液である。酸化エチレンの平均付加モル数は 16 である。本品は、定量するとき、ポリオキシエチレンラウリルエーテル酢酸ナトリウム ($C_{46}H_{91}NaO_{19}$; 971.19) 19.8～24.2%を含む。
ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸アンモニウム液	本品は、ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸アンモニウムの水溶液である。酸化エチレンの平均付加モル数は 2～3 である。本品は、定量するとき、 <u>ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸アンモニウムとして表示量の 90.0～110.0%を含む</u> 。	本品は、「 <u>ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸</u> 」の <u>アンモニウム塩</u> の水溶液である。酸化エチレンの平均付加モル数は 2～3 である。本品は、定量するとき、 <u>表示量の 90.0～110.0%に対応するポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸アンモニウムを含む</u> 。
ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸ジエタノールアミン・ヤシ脂肪酸ジエタノールアミド混合物	本品は、ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸ジエタノールアミンと「ヤシ脂肪酸ジエタノールアミド」からなる混合物である。ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸の酸化エチレンの平均付加モル数は 4 である。	本品は、「 <u>ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸</u> 」の <u>ジエタノールアミン塩</u> と「ヤシ脂肪酸ジエタノールアミド」からなる混合物である。ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸の酸化エチレンの平均付加モル数は 4 である。
ポリ酢酸ビニル液	本品は、ポリ酢酸ビニルのエタノール溶液である。	本品は、「 <u>ポリ酢酸ビニル</u> 」のエタノール溶液である。
ミリスチン酸亜鉛	本品は、主としてミリスチン酸の亜鉛塩 <u>からなる</u> 。本品を乾燥したものは、定量するとき、亜鉛 (Zn:65.38) 11.5～13.5%を含む。	本品は、主として「 <u>ミリスチン酸</u> 」の <u>亜鉛塩である</u> 。本品を乾燥したものは、定量するとき、亜鉛 (Zn:65.38) 11.5～13.5%を含む。
ミリスチン酸アルミニウム	本品は、主としてミリスチン酸のアルミニウム塩 ($C_{42}H_{81}AlO_6$; 709.09) からなる。本品を乾燥したものは、定量するとき、アルミニウム (Al:26.98) 3.5～6.5%を含む。	本品は、主として「 <u>ミリスチン酸</u> 」の <u>アルミニウム塩</u> からなる。本品を乾燥したものは、定量するとき、アルミニウム (Al:26.98) 3.5～6.5%を含む。
ミリスチン酸カリウム	本品は、主としてミリスチン酸のカリウム塩 ($C_{14}H_{27}KO_2$; 266.46) からなる。	本品は、主として「 <u>ミリスチン酸</u> 」の <u>カリウム塩</u> からなる。

ミリスチン酸カルシウム	本品は、主としてミリスチン酸のカルシウム塩 ($C_{28}H_{54}CaO_4$:494.80) からなる。本品を乾燥したものは、定量するとき、カルシウム (Ca:40.08) 7.2～8.1%を含む。	本品は、主として「ミリスチン酸」のカルシウム塩からなる。本品を乾燥したものは、定量するとき、カルシウム (Ca:40.08) 7.2～8.1%を含む。
ミリスチン酸マグネシウム	本品は、主としてミリスチン酸のマグネシウム塩 ($C_{28}H_{54}MgO_4$:479.04) からなる。本品を乾燥したものは、定量するとき、マグネシウム (Mg:24.31) 4.5～6.0%を含む。	本品は、主として「ミリスチン酸」のマグネシウム塩である。本品を乾燥したものは、定量するとき、マグネシウム (Mg:24.31) 4.5～6.0%を含む。
ミリストイルメチル-β-アラニンナトリウム液	本品は、主として <i>N</i> -ミリストイル- <i>N</i> -メチル-β-アラニンナトリウムからなる水溶液である。	本品は、主として「 <i>N</i> -ミリストイル- <i>N</i> -メチル-β-アラニンナトリウム」の水溶液である。
無水リン酸水素カルシウム	本品は、リン酸のカルシウム塩である。本品を乾燥したものは、定量するとき、リン酸水素カルシウム ($CaHPO_4$:136.06) 98.0%以上を含む。	本品は、「リン酸」のカルシウム塩からなる。本品を乾燥したものは、定量するとき、リン酸水素カルシウム ($CaHPO_4$:136.06) 98.0%以上を含む。
モノイソステアリン酸ソルビタン	本品は、主としてイソステアリン酸とソルビタンからなるモノエステルである。	本品は、主として「イソステアリン酸」と「ソルビット」からなるモノエステルである。
モノエタノールアミン	本品は、定量するとき、2-アミノエタノール (C_2H_7NO :61.08) 98.0%以上を含む。	本品は、定量するとき、モノエタノールアミン (C_2H_7NO) 98.0%以上を含む。
モノエタノールアミン液	本品は、2-アミノエタノールの水溶液である。本品は、定量するとき、モノエタノールアミン (C_2H_7NO :61.08) として表示量の 97.5～103.0%を含む。	本品は、「モノエタノールアミン」の水溶液である。本品を定量するとき、モノエタノールアミン (C_2H_7NO :61.08) として表示量の 97.5～103.0%を含む。
モノオレイン酸ソルビタン	本品は、主としてオレイン酸とソルビタンからなるモノエステルである。	本品は、主として「オレイン酸」と「ソルビット」からなるモノエステルである。
モノステアリン酸エチレングリコール	本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の薄膜法により測定するとき、波数 $2920cm^{-1}$ 、 $1740cm^{-1}$ 、 $1465cm^{-1}$ 及び $1180cm^{-1}$ 付近に吸収を認める。	本品につき、赤外吸収スペクトル測定法の液膜法により測定するとき、波数 $3460 \sim 3390cm^{-1}$ 、 $2920cm^{-1}$ 、 $1740cm^{-1}$ 、 $1465cm^{-1}$ 及び $1180cm^{-1}$ 付近に吸収を認める。
モノステアリン酸ソルビタン	本品は、主としてステアリン酸とソルビタンからなるモノエステルである。	本品は、主として「ステアリン酸」と「ソルビット」からなるモノエステルである。
モノパルミチン酸ソルビタン	本品は、主としてパルミチン酸とソルビタンからなるモノエステルである。	本品は、主として「パルミチン酸」と「ソルビット」からなるモノエステルである。
モノラウリン酸ソルビタン	本品は、主としてラウリン酸とソルビタンからなるモノエステルである。	本品は、主として「ラウリン酸」と「ソルビット」からなるモノエステルである。
<i>N</i> -ヤシ油脂肪酸アシルグリシンのカリウム	本品は、主として「ヤシ油脂肪酸」とグリシンの縮合物のカリウム塩からなる。本品を乾燥したものは、定量するとき、窒素 (N:14.01) 3.3～4.8%を含む。	本品は、主として「ヤシ油脂肪酸」と「グリシン」の縮合物のカリウム塩からなる。本品を乾燥したものは、定量するとき、窒素 (N:14.01) 3.3～4.8%を含む。

N-ヤシ油脂肪酸 アシルグリシンカ リウム液	本品は、「ヤシ油脂肪酸」とグリシンとの縮合物のカリウム塩の水溶液である。本品は、定量するとき、窒素（N:14.01）1.1～1.6%を含む。	本品は、「N-ヤシ油脂肪酸アシルグリシンカリウム」の水溶液である。本品は、定量するとき、窒素（N:14.01）1.1～1.6%を含む。
ヤシ油脂肪酸ソル ビタン	本品は、主として「ヤシ油脂肪酸」とソルビタンからなるモノエステルである。	本品は、主として「ヤシ油脂肪酸」と「ソルビット」のモノエステルからなる。
ラウリル硫酸マグ ネシウム液	本品は、ラウリル硫酸マグネシウムの水溶液である。	本品は、「ラウリル硫酸マグネシウム」の水溶液である。
ラウリルリン酸	本品は、主としてリン酸とラウリルアルコールのモノエステルからなり、ジエステルも含む。	本品は、主として「リン酸」と「ラウリルアルコール」のモノエステルからなり、ジエステルも含む。
ラウリン酸亜鉛	本品は、主としてラウリン酸の亜鉛塩（ $C_{24}H_{46}ZnO_4$:464.01）からなる。本品を乾燥したものは、定量するとき、亜鉛（Zn:65.38）として12.5～14.5%を含む。	本品は、主として「ラウリン酸」の亜鉛塩である。本品を乾燥したものは、定量するとき、亜鉛（Zn:65.38）として12.5～14.5%を含む。
ラウリン酸カリウ ム	本品は、主としてラウリン酸のカリウム塩（ $C_{12}H_{23}KO_2$:238.41）からなる。	本品は、主として「ラウリン酸」のカリウム塩（ $C_{12}H_{23}KO_2$:238.41）からなる。
ラウリン酸トリエ タノールアミン液	本品は、主としてラウリン酸のトリエタノールアミン塩（ $C_{18}H_{39}NO_5$:349.51）からなる水溶液である。	本品は、主として「ラウリン酸」のトリエタノールアミン塩（ $C_{18}H_{39}NO_5$:349.51）の水溶液である。
ラウロイル-L- グルタミン酸トリ エタノールアミン 液	本品は、N-ラウロイル-L-グルタミン酸トリエタノールアミンの水溶液である。本品は、定量するとき、N-ラウロイル-L-グルタミン酸トリエタノールアミン（ $C_{23}H_{46}N_2O_8$:478.62）として表示量の90～110%を含む。	本品は、「N-ラウロイル-L-グルタミン酸」のトリエタノールアミン塩の水溶液で、定量するときN-ラウロイル-L-グルタミン酸トリエタノールアミン（ $C_{23}H_{46}N_2O_8$:478.62）として表示量の90～110%を含む。
N-ラウロイル-L- グルタミン 酸・マグネシウム	本品は、主としてN-ラウロイル-L-グルタミン酸のマグネシウム塩（ $C_{34}H_{60}MgN_2O_{10}$:681.16）からなる。本品を乾燥したものは、定量するとき、窒素（N:14.01）3.0～4.5%を含む。	本品は、主として「N-ラウロイル-L-グルタミン酸」のマグネシウム塩からなる。本品を乾燥したものは、定量するとき、窒素（N:14.01）3.0～4.5%を含む。
リン酸一水素ナト リウム	本品は、リン酸の二ナトリウム塩の12水和物（ $Na_2HPO_4 \cdot 12H_2O$:358.14）である。本品を乾燥したものは、定量するとき、リン酸一水素ナトリウム（ Na_2HPO_4 :141.96）として98.0%以上を含む。	本品は、「リン酸」の二ナトリウム塩の12水和物からなる。本品を乾燥したものは、定量するとき、リン酸一水素ナトリウム（ Na_2HPO_4 :141.96）として98.0%以上を含む。
リン酸三ナトリウ ム	本品は、リン酸の三ナトリウム塩の12水和物（ $Na_3PO_4 \cdot 12H_2O$:380.12）である。本品を乾燥したものは、定量するとき、リン酸三ナトリウム（ Na_3PO_4 :163.94）として99.0～103.0%を含む。	本品は、「リン酸」の三ナトリウム塩の12水和物である。本品を乾燥したものは、定量するとき、リン酸三ナトリウム（ Na_3PO_4 :163.94）として99.0～103.0%を含む。
リン酸ジグリセリ ル二ナトリウム	本品は、主としてリン酸とジグリセリンのモノエステルのナトリウム塩からなる。	本品は、主として、「リン酸」と「ジグリセリン」のモノエステルのナトリウム塩からなる。
リン酸ジセチル	本品は、主としてリン酸とセタノールのジエステル（ $C_{32}H_{66}O_4P$:546.84）からなる。	本品は、主として「リン酸」と「セタノール」のジエステル（ $C_{32}H_{66}O_4P$:546.84）からなる。
リン酸水素カルシ シ	本品は、リン酸のカルシウム塩の二水和	本品は、「リン酸」のカルシウム塩の2水

ウム	物 <u>(CaHPO₄・2H₂O:172.09)</u> である。本品を乾燥したものは、定量するとき、リン酸水素カルシウム (CaHPO ₄ :136.06) 98.0%以上を含む。	和物 <u>からなる</u> 。本品を乾燥したものは、定量するとき、リン酸水素カルシウム (CaHPO ₄ :136.06) 98.0%以上を含む。
リン酸トリオレイ ル	本品は、主としてリン酸とオレイルアルコールのトリエステル (C ₅₄ H ₁₀₅ O ₄ P:849.38) からなる。	本品は、主として「 <u>リン酸</u> 」と「 <u>オレイルアルコール</u> 」とのトリエステル (C ₅₄ H ₁₀₅ O ₄ P:849.38) からなる。
リン酸トリステア リル	本品は、主としてリン酸とステアリルアルコールのトリエステルからなる。	本品は、主として「 <u>リン酸</u> 」と「 <u>ステアリルアルコール</u> 」のトリエステルからなる。
リン酸トリセチル	本品は、リン酸とセタノールのトリエステルである。	本品は、「 <u>リン酸</u> 」と「 <u>セタノール</u> 」のトリエステルである。
リン酸トリセチル (2)	本品は、主としてリン酸とセタノールのトリエステルからなる。	本品は、主として「 <u>リン酸</u> 」と「 <u>セタノール</u> 」のトリエステルからなる。
リン酸二水素カリ ウム	本品は、リン酸のカル륨塩 <u>である</u> 。本品を乾燥したものは、定量するとき、リン酸二水素カリウム (KH ₂ PO ₄ :136.09) 98.0%以上を含む。	本品は、「 <u>リン酸</u> 」のカル륨塩 <u>からなる</u> 。本品を乾燥したものは、定量するとき、リン酸二水素カリウム (KH ₂ PO ₄ :136.09) 98.0%以上を含む。
リン酸二水素ナト リウム	本品は、リン酸のナトリウム塩の <u>二水和物 (NaH₂PO₄・2H₂O:156.01)</u> である。本品を乾燥したものは、定量するとき、リン酸二水素ナトリウム (NaH ₂ PO ₄ :119.98) として 98.0%以上を含む。	本品は、「 <u>リン酸</u> 」のナトリウム塩の <u>2水和物からなる</u> 。本品を乾燥したものは、定量するとき、リン酸二水素ナトリウム (NaH ₂ PO ₄ :119.98) として 98.0%以上を含む。
リン酸モノステア リル	本品は、主としてリン酸とステアリルアルコールのモノエステルからなる。	本品は、主として「 <u>リン酸</u> 」と「 <u>ステアリルアルコール</u> 」のモノエステルからなる。
リン酸モノセチル	本品は、主としてリン酸とセタノールのモノエステルからなる。	本品は、主として「 <u>リン酸</u> 」と「 <u>セタノール</u> 」とのモノエステルからなる。
リン酸モノミリス チル	本品は、主としてリン酸とミリスチルアルコールの <u>モノエステル</u> からなる。本品は、定量するとき、リン酸モノミリスチル (C ₁₄ H ₃₁ O ₄ P:294.37) 93.0%以上を含む。	本品は、主として「 <u>リン酸</u> 」と「 <u>ミリスチルアルコール</u> 」を <u>縮合して得られるリン酸エステル</u> からなる。本品は、定量するとき、リン酸モノミリスチル (C ₁₄ H ₃₁ O ₄ P:294.37) 93.0%以上を含む。
ローズ水	<p>確認試験 本品 <u>10mL</u> を <u>遠心沈殿管</u> にとり、<u>酢酸エチル 2mL</u> 及び <u>塩化ナトリウム 1.0g</u> を加え、5分間振り混ぜる。これを <u>遠心分離し、上層を</u> 試料溶液とする。別に、2-フェニルエタノール <u>0.05g</u> 及びゲラニオール <u>0.05g</u> にそれぞれ <u>酢酸エチル</u> を加えて溶かし、<u>それぞれ 50mL としたものを標準溶液</u> とする。試料溶液及び <u>各標準溶液 1 µL</u> につき、次の条件でガスクロマトグラフィーにより試験を行うとき、試料溶液 <u>から得たピークの保持時間</u> は、<u>各標準溶液から得た 2-フェニルエタノール及びゲラニオール</u> のピークの保持時間に一致する。</p> <p><u>試験条件</u></p>	<p>確認試験 本品 <u>20mL</u> を <u>分液漏斗</u> にとり、<u>ヘキサン 30mL</u> で <u>2分間抽出する</u>。ヘキサン層をとり、更にヘキサン <u>30mL</u> で <u>2分間抽出する</u>。ヘキサン層を合わせ、<u>1 mL</u> まで減圧濃縮し、試料溶液とする。別に、2-フェニルエタノール <u>0.01g</u> 及びゲラニオール <u>0.01g</u> にそれぞれ <u>ヘキサン 1 mL</u> を加えて溶かし標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液 <u>各 1 µL</u> につき、次の <u>操作条件</u> でガスクロマトグラフィーによつて試験を行うとき、<u>溶媒ピークを除き</u>、試料溶液の <u>主なピーク</u> は、標準溶液のピークの保持時間に一致する。</p> <p><u>操作条件</u></p> <p>検出器：水素炎イオン化検出器 カラム：内径 <u>3 mm</u>、長さ <u>2 m</u> の <u>ガ</u></p>

	<p>検出器：水素炎イオン化検出器 カラム：内径 <u>0.18mm</u>，長さ <u>20m</u> の <u>フューズドシリカ管の内面</u>に，<u>ガス</u> <u>クロマトグラフィー用 5 %フェニル</u> <u>ーメチルシリコーンポリマー</u>を厚さ <u>0.18μm</u> で被覆する。 カラム温度：<u>50℃</u>で約 1 分間保持し た後，毎分 <u>14℃</u>で <u>175℃</u>まで昇温 し，次いで毎分 <u>100℃</u>で <u>280℃</u>まで昇 温し，<u>280℃</u>で約 2 分間保持する。 <u>注入口温度：250℃</u> <u>検出器温度：310℃</u> <u>キャリアーガス：窒素</u> <u>流量：毎分 0.5mL の一定量</u> <u>スプリット比：1：50～1：200</u></p>	<p><u>ラス管にガスクロマトグラフィー用</u> <u>ポリエチレングリコールニトロテレ</u> <u>フタル酸エステル</u>を，酸で洗った <u>150～180μm</u> のガスクロマトグラフ <u>ィー用ケイソウ土に 5 %の割合で被</u> <u>覆したもの</u>を充填する。 カラム温度：<u>100→240℃</u>（毎分 5℃ で昇温） <u>キャリアーガス及び流量：窒素，毎</u> <u>分 50mL 付近の一定量</u></p>
ローズマリー水	<p>確認試験 本品 <u>10mL</u>に，ヘキサン <u>1 mL</u>と 塩化ナトリウム <u>0.6g</u> を加え，よく混和し た後，遠心分離し，上澄液を試料溶液と する。別に 1，8－シネオール <u>40μL</u>をヘ キサン <u>10mL</u> に溶かし標準溶液とする。 これらの液につき，薄層クロマトグラフ ィーにより試験を行う。試料溶液及び標 準溶液をそれぞれ <u>5μL</u> ずつ薄層クロマト グラフィー用シリカゲルを用いて調製し た薄層板にスポットする。次に，シクロ ヘキサン／<i>tert</i>－ブチルメチルエーテル／ アセトニトリル混液(<u>20：10：1</u>)を展開 溶媒として約 <u>7 cm</u> 展開した後，薄層板を 風乾する。これに 4－メトキシベンズア ルデヒド・硫酸試液を均等に噴霧し， <u>105℃</u>で 5 分間加熱するとき，試料溶液か ら得た数個のスポットのうち 1 個のスポ ットは，標準溶液から得た濃青色のスポ ットと色調及び <u>R_f 値</u>が等しい。</p>	<p>確認試験 本品 <u>50mL</u>に，<u>水 150mL</u>，ヘキ サン <u>50mL</u>，塩化ナトリウム <u>3 g</u>を加えて よく振り混ぜ，しばらく静置した後，ヘ キサン層を分取し，水浴上で減圧乾固す る。残留物にメタノール <u>0.5mL</u> を加えて 溶かし試料溶液とする。試料溶液 <u>10μL</u> を，薄層上にスポットし，トルエン及び 酢酸エチルの混液 (<u>93：7</u>) を展開溶媒 として薄層クロマトグラフィーにより試 験を行う。ただし，展開距離は <u>15cm</u> と する。次に薄層板に硫酸のエタノール (<u>95</u>) 溶液 (<u>1→20</u>) を噴霧し，次いで バニリン・エタノール試液を噴霧後， <u>110℃</u>で約 5 分間加熱するとき，青色のス ポットを認め，その <u>R_f 値</u>及び色調は，標 準溶液の，1，8－シネオールのメタノ ール溶液 (<u>1→100</u>) で得られるスポット の，<u>R_f 値</u>及び色調と等しい。</p>

以上